

表示、MSDSの活用による労働災害防止

○基本的な考え方

化学物質の危険有害性情報の伝達は、危険有害であることを知らずに取り扱うことによる労働災害を防ぐため、譲渡提供時の容器及び事業場内で使用する容器へのラベル表示が基本であり、最も重要である。

次いで、当該化学物質による製造取扱い作業における労働災害防止のため、MSDSの危険有害性情報に基づくリスクアセスメント等の具体的な対策を講ずることが必要である。

